

令和3事業年度

財務諸表 (認定特定求職者職業訓練勘定)

独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構

自 令和 3年 4月 1日

至 令和 4年 3月 31日

貸借対照表
(令和4年3月31日)

(単位：円)

資産の部

I 流動資産			
現金及び預金		2,391,773,536	
未収消費税等		85,149	
賞与引当金見返(注)		116,455,521	
棚卸資産		21,730	
前払金		3,227	
前払費用		4,520,829	
		<hr/>	
流動資産合計			2,512,859,992
II 固定資産			
1 有形固定資産			
車両運搬具	34,867,340		
減価償却累計額	<u>△ 31,767,214</u>	3,100,126	
工具器具備品	48,718,790		
減価償却累計額	<u>△ 23,626,214</u>	<u>25,092,576</u>	
有形固定資産合計		28,192,702	
2 投資その他の資産			
敷金		19,800	
退職給付引当金見返(注)		<u>3,701,450,904</u>	
投資その他の資産合計		3,701,470,704	
固定資産合計			<u>3,729,663,406</u>
資産合計			<u><u>6,242,523,398</u></u>

(認定特定求職者職業訓練勘定)

貸借対照表
(令和4年3月31日)

(単位：円)

負債の部

I 流動負債			
運営費交付金債務 (注)		816,891,000	
未払金		494,356,358	
未払費用		780,870	
引当金			
賞与引当金	116,455,521	116,455,521	
流動負債合計			1,428,483,749
II 固定負債			
資産見返負債 (注)			
資産見返運営費交付金	28,212,502	28,212,502	
引当金			
退職給付引当金	3,701,450,904	3,701,450,904	
固定負債合計			3,729,663,406
負債合計			5,158,147,155

純資産の部

I 利益剰余金			
積立金		962,465,981	
当期末処分利益		121,910,262	
(うち当期総利益 121,910,262)			
利益剰余金合計			1,084,376,243
純資産合計			1,084,376,243
負債純資産合計			6,242,523,398

(注) 独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目

(認定特定求職者職業訓練勘定)

行政コスト計算書

(令和3年4月1日 ~ 令和4年3月31日)

(単位：円)

I 損益計算書上の費用		
業務費	1,767,170,643	
一般管理費	156,076,444	
臨時損失	3	
損益計算書上の費用合計	<u> </u>	<u>1,923,247,090</u>
II 行政コスト		<u><u>1,923,247,090</u></u>

(認定特定求職者職業訓練勘定)

損益計算書

(令和3年4月1日 ~ 令和4年3月31日)

(単位：円)

経常費用

業務費

人件費	1,083,095,127	
減価償却費	7,904,534	
賞与引当金繰入	110,306,942	
退職給付費用	△ 206,458,311	
その他の業務費	<u>772,322,351</u>	1,767,170,643

一般管理費

人件費	73,848,279	
賞与引当金繰入	6,148,579	
退職給付費用	△ 13,362,089	
その他の一般管理費	<u>89,441,675</u>	<u>156,076,444</u>

経常費用合計

1,923,247,087

経常収益

運営費交付金収益(注)

運営費交付金収益	2,133,804,528	
資産見返運営費交付金戻入	<u>7,974,537</u>	2,141,779,065

賞与引当金見返に係る収益(注)

116,455,521

退職給付引当金見返に係る収益(注)

△ 219,820,400

雑益

6,743,166

経常収益合計

2,045,157,352

経常利益

121,910,265

臨時損失

固定資産除却損

3

臨時損失合計

3

当期純利益

121,910,262

当期総利益

121,910,262

(注) 独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目

純資産変動計算書

(令和3年4月1日 ~ 令和4年3月31日)

	I 利益剰余金				純資産合計
	積立金	当期末処分利益	利益剰余金合計		
			うち当期総利益		
当期首残高	858,638,590	103,827,391	—	962,465,981	962,465,981
当期変動額					
I 利益剰余金の当期変動額					
(1)利益の処分					
利益処分による積立て	103,827,391	△ 103,827,391		0	0
(2)その他					
当期純利益		121,910,262	121,910,262	121,910,262	121,910,262
当期変動額合計	103,827,391	18,082,871	121,910,262	121,910,262	121,910,262
当期末残高	962,465,981	121,910,262	121,910,262	1,084,376,243	1,084,376,243

(認定特定求職者職業訓練勘定)

キャッシュ・フロー計算書
(令和3年4月1日 ~ 令和4年3月31日)

(単位：円)

I 業務活動によるキャッシュ・フロー	
業務費及び一般管理費による支出	△ 804,601,732
人件費支出	△ 1,351,332,599
運営費交付金収入	2,441,840,000
その他業務収入	<u>7,436,890</u>
業務活動によるキャッシュ・フロー	293,342,559
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△ 6,894,073
敷金の回収による収入	<u>70,000</u>
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,824,073
III 資金増加額	286,518,486
IV 資金期首残高	<u>2,105,255,050</u>
V 資金期末残高	<u><u>2,391,773,536</u></u>

(認定特定求職者職業訓練勘定)

利益の処分に関する書類

(単位：円)

I 当期末処分利益 当期総利益	121,910,262	121,910,262
II 利益処分類 積立金		<u>121,910,262</u>

重要な会計方針

当事業年度より、改訂後の「独立行政法人会計基準」及び「独立行政法人会計基準注解」（令和3年9月21日改訂）並びに『独立行政法人会計基準』及び『独立行政法人会計基準注解』に関するQ&A（令和4年3月最終改訂）（以下「独立行政法人会計基準等」という。）を適用して、財務諸表等を作成しております。

なお、独立行政法人会計基準等のうち、時価の算定に係る改訂内容は令和4事業年度から、収益認識に係る改訂内容は令和5事業年度から、それぞれ適用します。

1. 運営費交付金収益の計上基準

業務達成基準を採用しております。

管理部門の活動については、期間進行基準を採用しています。

2. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準及び評価方法は、先入先出法による原価法を採用しております。

3. 減価償却の会計処理方法

有形固定資産の減価償却の方法については、定額法を採用しております。

なお、主な資産の耐用年数は以下のとおりであります。

車両運搬具	4年
工具器具備品	3～6年

4. 貸倒引当金の計上基準

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

5. 賞与に係る引当金の計上基準

役員員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当事業年度に帰属する額を計上しております。なお、運営費交付金により財源措置がなされる見込みであるため、賞与引当金と同額を賞与引当金見返として計上しております。

6. 退職給付に係る引当金の計上基準並びに退職給付費用の処理方法

役員員の退職給付に備えるため、当該事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については期間定額基準によっております。

過去勤務費用は、その発生時の役員員の平均残存勤務期間による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における役員員の平均残存勤務期間による定額法により按分した額を、それぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。

なお、退職一時金並びに確定給付企業年金等に係る掛金及び年金積立金不足額については、運営費交付金により財源措置がなされる見込みであるため、退職給付引当金と同額を退職給付引当金見返として計上しております。

7. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

キャッシュ・フロー計算書における資金は、手許現金及び随時引き出し可能な預金からなっております。

8. 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっております。

重要な会計上の見積り

退職給付引当金

1. 当事業年度の財務諸表に計上した金額

	当事業年度
退職給付引当金	3,701,450,904円

2. 会計上の見積りの内容について国民その他の利害関係者の理解に資するその他の情報

採用している退職給付制度の概要につきましては、注記事項〔退職給付債務関係〕に記載した内容と同一であります。

退職給付引当金は、退職給付債務に未認識過去勤務費用及び未認識数理計算上の差異を加減した額から年金資産の額を控除して算出しており、退職給付債務は、役職員の退職により見込まれる退職給付の総額のうち、期末までに発生していると認められる額を割り引いて計算しています。また、退職給付に関連する損益の計算において、年金資産の額に長期期待運用収益率を乗じた期待運用収益の額を考慮しており、実際運用収益との差異は未認識数理計算上の差異として将来に渡って費用処理されます。従って、割引率及び長期期待運用収益率が重要な会計上の見積りに用いた主要な仮定となります。割引率は国債の利回りを参考に決定しており、長期期待運用収益率は、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮し決定しております。

これらの仮定について、将来の不確実な経済条件の変動等により見直しが必要となった場合、翌事業年度の財務諸表において認識する退職給付引当金に影響を与える可能性があります。

注記事項

〔行政コスト計算書関係〕

1. 独立行政法人の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト	
行政コスト	1, 923, 247, 090 円
自己収入等	△ 6, 743, 166 円
機会費用	368, 877 円
<hr/>	
独立行政法人の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト	1, 916, 872, 801 円

2. 機会費用の計上方法

国又は地方公共団体との人事交流による出向職員から生ずる機会費用の計算方法

当該職員が国又は地方公共団体に復帰後退職する際に支払われる退職金のうち、独立行政法人での勤務期間に対応する部分について、給与規則に定める退職給付支給基準等を参考に計算しております。

〔損益計算書関係〕

・業務費 人件費の内訳	
給与及び手当	919, 675, 202 円
法定福利費（職員）	163, 419, 925 円
・その他の業務費のうち主要な費目及び金額	
謝金	574, 318, 010 円
維持管理・保守修繕費	46, 506, 377 円
消耗品費	23, 884, 159 円
賃金	23, 198, 759 円
賃借料	22, 776, 642 円
・一般管理費 人件費の内訳	
給与及び手当	60, 451, 040 円
法定福利費（職員）	10, 747, 646 円
役員報酬	2, 368, 988 円
法定福利費（役員）	280, 605 円
・その他の一般管理費のうち主要な費目及び金額	
維持管理・保守修繕費	42, 772, 263 円
雑役務費	10, 667, 825 円
備品費	9, 523, 573 円
謝金	5, 807, 986 円
賃借料	4, 311, 317 円

・雑益の内訳

職員宿舍使用料	5,259,177 円
その他の雑収入	1,453,949 円
情報公開開示手数料	30,040 円

〔キャッシュ・フロー計算書関係〕

・資金の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

現金及び預金勘定	2,391,773,536 円
資金期末残高	2,391,773,536 円

〔金融商品関係〕

1. 金融商品の状況に関する事項

当機構では、余裕金の運用については独立行政法人通則法第 47 条の規定に定める金融商品に限定しており、株式等は保有していません。

未収金等に係る債務者の信用リスクは、会計規程等に沿ってリスク低減を図っております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

令和 4 年 3 月 31 日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（注 2）参照。

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1) 現金及び預金	2,391,773,536 円	2,391,773,536 円	—
資産 計	2,391,773,536 円	2,391,773,536 円	—
(1) 未払金	(494,356,358 円)	(494,356,358 円)	—
負債 計	(494,356,358 円)	(494,356,358 円)	—

(注) 負債に計上されるものは () で示しております。

(注 1) 金融商品の時価の算定方法に関する事項

○資産

(1) 現金及び預金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

○負債

(1) 未払金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注 2) 時価を把握することが極めて困難な金融商品に関する事項

敷金（貸借対照表計上額 19,800 円）については、市場価格がなく、将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表には含めておりません。

〔退職給付債務関係〕

1. 採用している退職給付制度の概要

当機構は、役職員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度として、企業年金基金制度及び退職一時金制度を採用しております。企業年金基金制度（積立型制度である。）では、労働関係法人企業年金基金に加入しており、給与と勤務期間に基づいた一時金又は年金を支給しております。退職一時金制度（非積立型制度である。）では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付債務	2,419,341,545 円
勤務費用	97,541,703 円
利息費用	2,439,387 円
数理計算上の差異の当期発生額	△ 82,704,478 円
退職給付の支払額	△ 84,089,385 円
期末における退職給付債務	2,352,528,772 円

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

期首における年金資産	548,230,140 円
期待運用収益	10,580,842 円
数理計算上の差異の当期発生額	△ 24,480,471 円
事業主からの拠出額	30,192,615 円
退職給付の支払額	△ 34,358,149 円
期末における年金資産	530,164,977 円

(3) 退職給付債務及び年金資産と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

積立型制度の退職給付債務	854,963,929 円
年金資産	△ 530,164,977 円
積立型制度の未積立退職給付債務	324,798,952 円
非積立型制度の未積立退職給付債務	1,497,564,843 円
小 計	1,822,363,795 円
未認識数理計算上の差異	1,495,741,822 円
未認識過去勤務費用	383,345,287 円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	3,701,450,904 円
退職給付引当金	3,701,450,904 円
前払年金費用	—
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	3,701,450,904 円

(4) 退職給付に関連する損益

勤務費用	97,541,703 円
利息費用	2,439,387 円
期待運用収益	△ 10,580,842 円
数理計算上の差異の当期の運用処理額	△ 237,654,919 円
過去勤務費用の当期の費用処理額	△ 71,565,729 円
合 計	△ 219,820,400 円

(5) 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりです。

債券	58.2%
株式	15.4%
預金	0.0%
その他	26.4%
合計	100.0%

(6) 長期期待運用収益率の設定方法に関する記載

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(7) 数理計算上の計算基礎に関する事項

期末における主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表しております。）

割引率	0.000% (一時金)
	0.275% (年金)
長期期待運用収益率	1.930%

[重要な債務負担行為]

該当する事項はありません。

[重要な後発事象]

該当する事項はありません。